

歴史学の観点から被爆者を学ぶ

—「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」に参加して得た学び—



昭和女子大学 人間文化学部
歴史文化学科3年
桑原美陽

戦後史プロジェクトの概要

正式名称	昭和女子大学 戦後史史料を後世に伝えるプロジェクトー被団協関連文書ー							
概要	・2012年度から被団協関連文書整理会に昭和女子大学の学生が協力（100名近く） ・被団協関連文書を歴史学の手法を用いて分析し、被爆者運動の展開を日本の戦後史に位置づけて理解することを目指して、2018年度発足したプロジェクト。 ・完成年度である2021年度には、昭和女子大学光葉博物館で、特別展示「被爆者の足跡ー被団協関連文書の歴史的研究からー」を企画・開催。							
活動期間	2018年度～							
メンバー								
		合計	1年生	2年生	3年生	4年生	院生	
	2018年度	12名	6名	2名	4名			
	2019年度	12名	6名	6名		1名		
	2020年度	17名	8名	5名	2名		2名	
	2021年度	18名	3名	9名	3名	1名	2名	
	※2021年度には立正大学（2年生1名）、お茶の水女子大学（2年生1名、3年生1名）、東京外国語大学（大学院生1名）を含む。							
活動目的	①生の歴史史料を扱い、歴史像を構築することで、歴史学の学問的方法習得の場とする。 ②展示をつくりあげることで、博物館学芸員課程を履修する学生たちの学びの場とする。 ③学外の人びとと協働する感覚を身に付け、学生たちのキャリア意識向上につなげる。 ④被爆者運動の歩みを明らかにし、戦後史における被爆者運動の歴史的意義を考える。							
活動内容	①被爆者運動史料の整理・保存活動へ協力する。 ②被爆者運動史料を分析し、歴史学の立場から研究する。 ③被爆者運動関係者や被爆者へインタビューを踏まえて、より深い史料解読へとつなげる。 ④展示やメディアなどを通じて、研究成果を社会へと発信する。							
協働団体	特定非営利活動法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会							
顧問	松田忍先生（歴史文化学科・日本近現代史）							

【これまでのPJの活動内容】

- 学園祭での研究報告展示（2018年度～2020年度）
- 特別展「被爆者の足跡ー被爆者運動の歴史的研究からー」（2021年10月～11月 @光葉博物館）

2018年度研究展示「被爆者に『なる』」より 「私たちの問いかけ」

1945年8月に広島、長崎にいた人も私たちと同じ「普通の人びと」でした。男も女も、老いも若きもお腹の中の子も、民間人も軍人も。そんな「普通の人びと」の中から「被爆者」は生まれました。

自分たちの被爆体験が「人類史上決して忘れてはいけない体験である」と気づき、自分たちと同じ体験を誰にもさせたくないと思える人びとが生まれた時、
「ピカにやられた人」は「被爆者」であることを受け入れ、「被爆者に「なった」」のだと私たちは考えるようになりました。はじめから「被爆者」だった訳でも、同じ瞬間に「被爆者」になった訳でもないのです。
「被爆者」ということばが差別的に用いられた歴史があったことも事実です。あの日、広島、長崎にいた「普通の人びと」は、たまたまそこにいただけなのに、「あなたは被爆者として生きますか？（Yes／No）」という問いと一生向き合わなくてはならなくなったのです。

私たちの問いかけ

1945年8月の「あの日」、一斉に「被爆者」が生まれたのだと私たちは当たり前に考えていました。しかし今ではそれは正しくもあり、間違っているとも思っています。1945年8月、広島・長崎に相次いで投下された原子爆弾が被爆者を生んだのは事実です。

しかし被爆者という言葉は、もともと爆弾被害を受けた人びと一般を指す用語でしかなく、敗戦後長きにわたって、あえて原子爆弾被害者のみを指すならば「ピカにやられた人」という用語しかありませんでした。

1945年8月に広島、長崎にいた人も私たちと同じ「普通の人びと」でした。男も女も、老いも若きもお腹の中の子も、民間人も軍人も。そんな「普通の人びと」の中から「被爆者」は生まれました。

自分たちの被爆体験が「人類史上決して忘れてはいけない体験である」と気づき、自分たちと同じ体験を誰にもさせたくないと思える人びとが生まれた時、「ピカにやられた人」は「被爆者」であることを受け入れ、「被爆者に「なった」」のだと私たちは考えるようになりました。はじめから「被爆者」だった訳でも、同じ瞬間に「被爆者」になった訳でもないのです。

「被爆者」ということばが差別的に用いられた歴史があったことも事実です。あの日、広島、長崎にいた「普通の人びと」は、たまたまそこにいただけなのに、「あなたは被爆者として生きますか？（Yes／No）」という問いと一生向き合わなくてはならなくなったのです。

多くの「被爆者」の中から今回は5人の方を取り上げます。原爆に対峙しながら生きてきた人生の軌跡を学びながら、追体験していくことであなたも「心の被爆者」になってみませんか？

昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科3年
戦後史料プロジェクトリーダー 吉村 知華

特別展「被爆者の足跡」 終章 —私たちが考える継承—

終章 被爆者の足跡

近年、被爆者の高齢化が進み、被爆体験・原爆体験の「何を継承すべきなのか」が問われるようになっていきます。私たちは、被爆者運動を歴史的視座から捉え、それを後世に伝えることを考えるのならば、**継承すべきことは1945年の「あの日」だけではなく、「あの日」から現在までの被爆者の人生であると考えています。**これまでの被爆者の行動のみならず、思考のプロセスも含めた「**被爆者の人生まるごと**」を捉え、理解する必要があるのではないのでしょうか。

今日では核兵器の使用・保有に関する議論が国際的に展開されています。核兵器が使われた過去の延長線上に生きる私たちにとって、この問題は避けては通れないことであると思います。私たちが核兵器の無い未来について考えるとき、ともに立ち上がり、助け合い、世界へ訴えてきた「被爆者の足跡」に学ぶことは、決して少なくないはずです。

→ 断片的な事実や願いを「継承」するのではなく、**何故、継承しなければならないのかという被爆者の「歴史」**に着目する必要があるのではないかな？

第Ⅰ部では自ら被爆者として立ち上がり、国内のみならず国際的に活動した被爆者運動の歴史を概観しました。第Ⅱ部では被爆者への調査から「からだ」「くらし」「こころ」に及ぶ被害について考え、第Ⅲ部では原爆の力にあらがおうとする一人一人の被爆者の原爆体験に注目しました。

自らの想いを言葉にし、同じ想いを持つ人びとと語り合い、声を上げてきた多くの「被爆者の足跡」が、時代を動かす大きな力となってきたことが見えたのではないのでしょうか。

近年、被爆者の高齢化が進み、被爆体験・原爆体験の「何を継承すべきなのか」が問われるようになっていきます。私たちは、被爆者運動を歴史的視座から捉え、それを後世に伝えることを考えるのならば、継承すべきことは1945年の「あの日」だけではなく、「あの日」から現在までの被爆者の人生であると考えています。これまでの被爆者の行動のみならず、思考のプロセスも含めた「被爆者の人生まるごと」を捉え、理解する必要があるのではないのでしょうか。

今日では核兵器の使用・保有に関する議論が国際的に展開されています。核兵器が使われた過去の延長線上に生きる私たちにとって、この問題は避けて通れないことであると思います。私たちが核兵器の無い未来について考えるとき、ともに立ち上がり、助け合い、世界へ訴えてきた「被爆者の足跡」に学ぶことは、決して少なくないはずです。

本展が、私たちが創るより良い未来について考える機会となれば、たいへん嬉しく存じます。

私たちの活動

①被団協関連文書の整理



③被爆者へのインタビュー



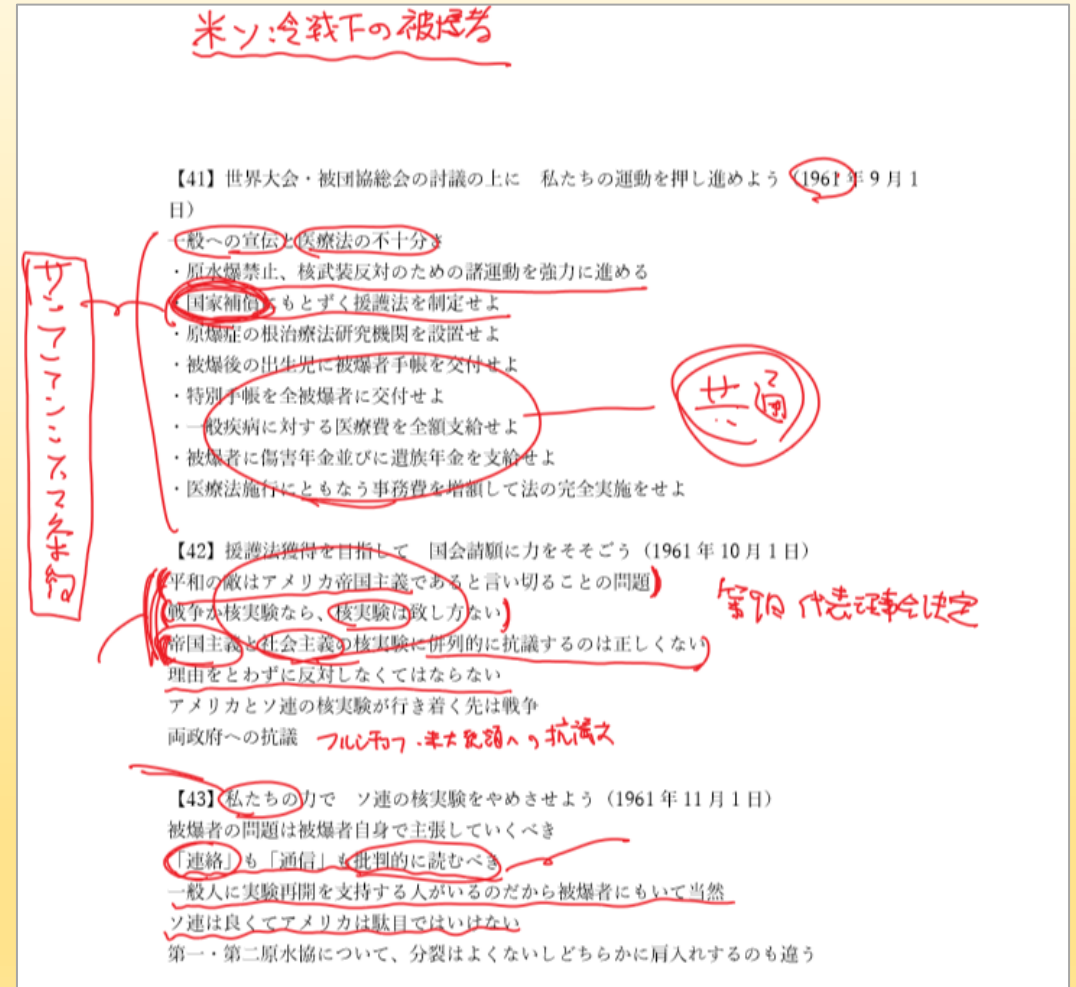
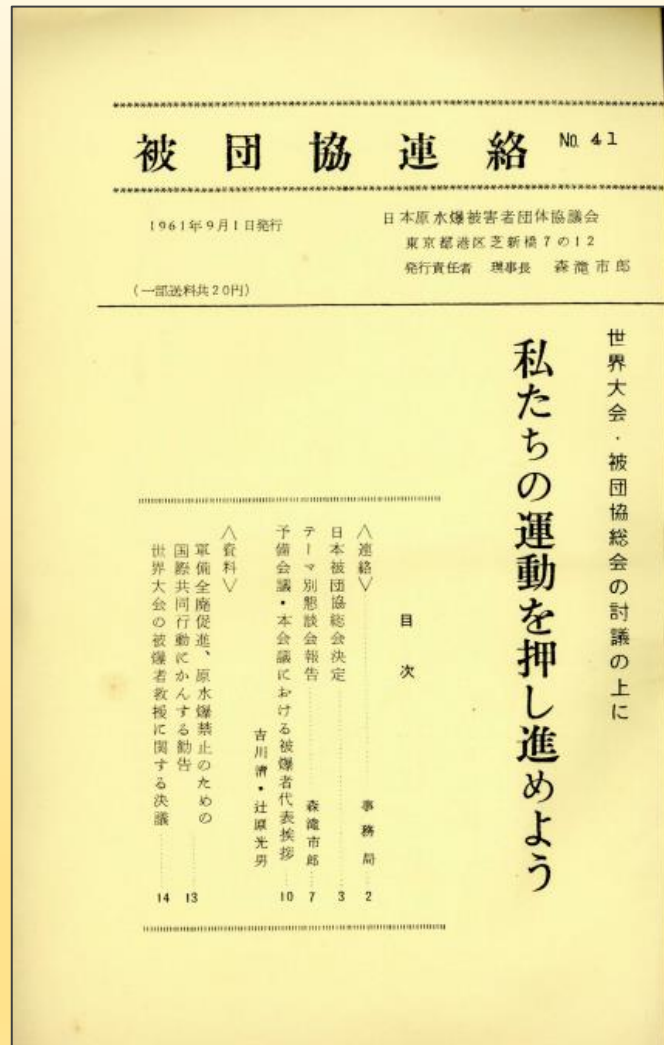
②被爆者運動関係史料の分析



④研究成果の学内外への発表



定例ミーティング 史料輪読『被団協連絡』1961年～1962年



『被団協連絡』（41号、1961年9月1日）

↑ 定例ミーティング時に使用した学生報告レジュメと赤字で記した気づきのメモ

史料の背景

【1960年代前半】

日本被団協が、被爆者団体として原水協から**自立**していき、**活動の基盤をつくる基点となる時期。**

【時代背景】

➤ 1960年代初頭

ソ連の核開発の是非や部分的核実験禁止の是非をめぐり、原水禁運動が政治的に分裂
→日本被団協も活動停止を余儀なくされる。

➤ 被爆者たちの選択

「キノコ雲の下を生きぬいた被爆者同士」として結束する。



【史料を読んだ気づき】

➤ 『被団協連絡』43号 「批判的に読んで欲しい」との記事

→ **民主的に議論せねばならない**とする感覚 = **日本被団協の基本的な性格**

私が被爆者運動史を学んだこと

➤ よくある質問

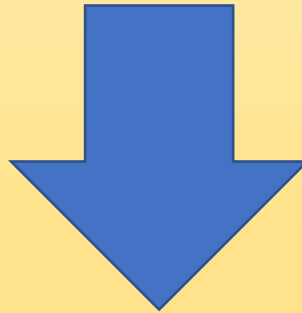
「何故今、歴史を学ぶ必要があるのか」

→ 「**逆に今だからこそ、歴史を学ぶべきだと思うんです。**」

➤ 歴史とは……

時代の流れや変化に伴って、見方が変わるもの。

猛スピードで大きく変化しているこのご時世だからこそ、
第三者の視点で歴史を学び、
「現代の私達から見る」歴史像を更新し続け、
今と結び付けて考える必要がある。



被爆者運動史においても同じことではないか？

先輩のエピソード 一頭の中の歴史像と写真史料

- 文字史料から見る被爆者のイメージ
新聞記事・アンケート調査
→政府・世界に訴える **運動をする被爆者像**



認識イメージのズレ

- 写真史料から見る被爆者のイメージ
宴会やフォークダンスを踊る被爆者の写真

→「あの日に被爆して、いろんな傷を抱えながらも、運動をしている被爆者」であったとしても、何処か親近感のあり、私たちと変わらない。



被爆者も一人の人間である

という当たり前、でも見落としがちな気付き



九州ブロック講習会後の懇談会

最後に

- ・ **2018年から4年間にかけて活動し、大きな気づきを得ることができた。**
 - 次の段階へ、更なる歴史像の構築や考察。
 - e.g. 『被団協連絡』などの被爆者運動初期を学び、
運動の本質や当時の悩みながらも、前へと進む被爆者像をみる
- ・ **被爆者運動史を通して、史料の見方を学んだ。**
 - 今後、自身の研究に生かしていきたい。
 - 次期メンバーや後輩たちにも繋げていきたい。
- ・ **史料整理をはじめとした歴史面からの継承を。**
 - 学ぶことの重要性を発信していきたい。

ご清聴ありがとうございました。